

『米国・日本におけるエンパワメント支援の 実態と課題について』

ー米国のエンパワメント活動の調査からー

日本財団聴覚障害者海外奨学金事業 第1期生

元ロチェスター工科大学・国立聾工科大学 留学生

太田 琢磨

米国の調査で明らかになった実態や課題

- エンパワメント支援に関わる人々は、以下の専門知識を有する人たちである。
 - ソーシャルワーク修士号、博士号の所持者
 - カウンセリング修士号、博士号の所持者
 - ろう教育修士号、博士号の所持者
- エンパワメントの援助を行うことのできる専門家は多いが、聴覚障害者に関する知識を持ち、手話で流暢にコミュニケーションを取ることのできる人は多いとはいえない
- エンパワメントの支援は学生の意識向上だけのために利用されるわけではない
- 人工内耳を装用した学生の増加

ミレニアムスチューデント問題

□ 定義

- 1980年～2000年の間に生まれた学生
- パソコン、携帯電話などの新しいテクノロジーと共に育ってきた学生

□ 何が違うのか

- 直接的コミュニケーションだけではなく、間接的コミュニケーション（電子メール・メッセージ等）にも慣れている
- コミュニケーション方法が多様である
- これまでに培ってきた支援ノウハウだけでは対応しきれない

「エンパワメント」に関する 両国間の特徴や違い

- アメリカ
 - 多様なマイノリティに対応するための支援という側面がある
 - エンパワメント支援に主に関わるのは専門家がほとんどであり、障害学生専門の部署が設けられている
- 日本
 - 学生の権利擁護といった側面が強い
 - 必ずしも専門家が関わっているわけではなく、障害学生専門の部署が設けられていることは希である

エンパワメントの定義とは

- 社会福祉援助活動(ソーシャルワーク)において、利用者、利用者集団、コミュニティなどが、力（パワー）を自覚して行動できるような援助を行うこと。利用者などの主体性、人権などが脅かされている状態において、心理的、社会的に支援する課程を言う。その目的は、脅かされている状態に対して、利用者、集団、コミュニティ等が自立性を取り戻し、その影響力、支配力を発揮できるようにすることである。1980年以降、米国、イギリスを中心に発展してきた手法であるが、現在では社会福祉援助活動の動向として根付いてきた。
- 「新版 社会福祉用語辞典」中央法規出版 より

エンパワメントの3つの段階とは

□ 1. 自己変革

- 当事者が自分の潜在的ニーズを発見する段階

□ 2. 集団変革

- 同じニーズを持つグループの力を強めていく段階

□ 3. 社会変革

- 社会に対してニーズを明らかにし、理解を求めていく段階

聴覚障害学生に対するエンパワメント支援

- 当事者が自分の障害を様々な角度から捉え、今自分の持つ潜在的ニーズを把握できるようになること
- 潜在的ニーズを理解し今必要な支援を他者に訴えていくコミュニケーション能力を身につけること
- 同じ悩みや課題を持つグループの中で互いが影響を与え合いながら成長していくようになること
- 社会に出てから遭遇する様々な障壁を乗り越えられるよう、自ら行動を起こして行かれる実践力を身につけること

支援者に求められる技術とは

- 解決への道を作るのは支援者ではなく当事者である
 - 答えを与えるのではなく、今当事者が持つ潜在的ニーズを当事者自身が受け入れ、その後どうするべきかを考えていくプロセス作りを行う
- 短期目標だけではなく、学生の入学から卒業、そして社会に出るまでの長期的目標も立て、支援を進めていく
- 当事者が社会に出て、自らの力で様々な障害を乗り越えていく力と思考能力を身につけられるように支援をする

日本における今後の課題

- エンパワーメントの意義を理解し、それを実行できる専門家の育成
- 手話で聴覚障害学生とコミュニケーションが取れる専門家の育成
- その専門家をスーパーバイズするスーパーバイザーの育成
- コーディネートおよびカウンセリング両方を担う人材。なおかつ聴覚障害者以外の障害者への支援のできる人材の育成
- 短期計画だけを視野に入れるのではなく、入学から卒業までを一貫して支援するという長期計画も視野に入れて支援を行う人材の育成